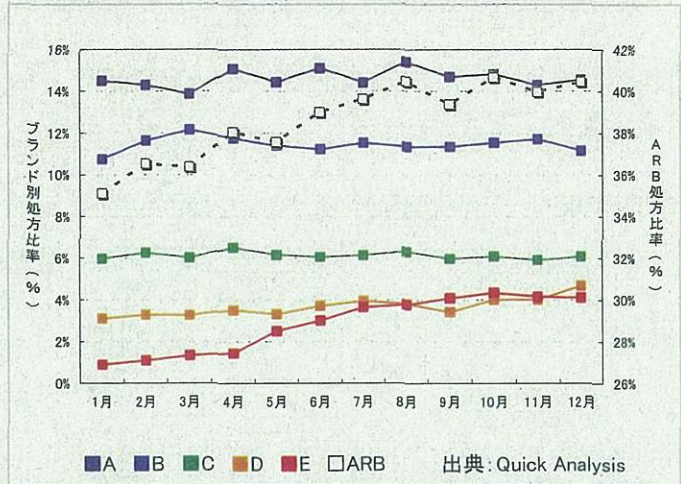


# 糖尿病かつ高血圧症疾患患者の ARB 製剤処方

- 今年 2006 年 4 月に高血圧治療薬のニューロタンが、ARB 製剤として国内初の 2 型糖尿病における糖尿病性腎症への適応を取得しました。2006 年の ARB 製品のシェアがどのように変動していくのか気になると思いますが、今回は 2005 年の「糖尿病患者 AND 高血圧症」患者の ARB (ATC:C09C) 処方変動を患者数ベースで振り返ってみようと思います。

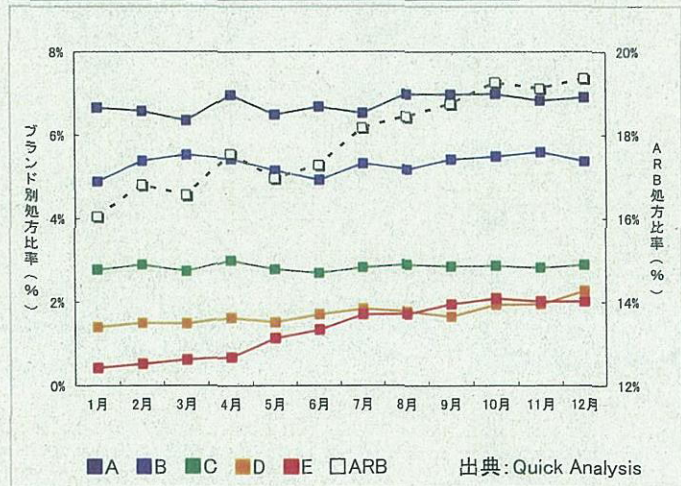
- 図 1 は「糖尿病 AND 高血圧症」患者数 (N=5,166 人) を 100% として、ARB 全体とブランド別 (5 種) の処方患者数比率の変動を見たものです。  
ARB 全体では「糖尿病患者 AND 高血圧症」患者に対する処方シェアが伸張していることがわかります。しかし、ブランド別でみると、ブランド E 以外はあまり伸張していないことがわかります。ブランド E は、シェアが高いとはいえませんが、1 年で約 4 倍に伸びています。

図 1. 糖尿病 & 高血圧症患者における ARB 処方変動 (2005 年)



- 次に糖尿病患者 (他疾患は考慮せず) で同様に分析すると (N=13,902 人)、ARB の処方は徐々に伸びています。そして、この中でもブランド E の処方シェアが伸張していることがわかります。また、ブランド D も徐々に処方シェアを伸ばしています。(図 2)  
ちなみに、高血圧症患者 (他疾患は考慮せず) でみてもブランド E は処方を伸ばしていました。

図 2. 糖尿病患者における ARB 処方変動 (2005 年)



- 高血圧症で糖尿病であれば、糖尿病腎症でなくても ARB は処方可能であるため、レセプトの性質上、レセプトに糖尿病腎症として記載されてくることは多くないと予想されます。今後は高血圧症の糖尿病患者について投薬量をみながら追跡して分析していくことがベターでしょう。  
冒頭にも述べましたが、2006 年 4 月にニューロタンが 2 型糖尿病の糖尿病腎症への適応を取得しています。2006 年の ARB 市場は 2005 年とは異なる様相を呈していくのでしょうか。

処方患者数の推移